

所 信 表 明 （平成29年12月7日）

平成29年第4回京丹波町議会定例会の開会にあたり、また、京丹波町長の就任にあたり、所信の一端を申し述べさせていただきます。

1 1月5日執行の京丹波町長選挙において、町民の皆さまの力強いご支援により当選をさせていただき、1月20日に京丹波町長に就任をいたしました。責任の重大さを痛感いたしますとともに、決意新たに職務を全うしていく所存でございます。

私は、今回の選挙戦を通じて多くの町民の方とお話しする機会を得ることができ、町民の方々の思いをお伺いすることができました。

子どもや若者が減少し、高齢化が進むなかで、空き家も増え続けており、このまま集落の機能が維持できるのかという不安、先祖から預かった田畑をこの先も守っていけるのかといった不安、このまま人口が減少していけば京丹波町はどうなるのだろうといった将来への不安、そんな中で新庁舎の建設をして町財政は大丈夫なのかという不安、そして町行政の公平・公正化に対する疑問、こうした不安や疑問を口にされる方が数多くいらっしゃいました。

そして、そんな将来への不安や疑問の中で、「京丹波町をなんとかしてほしい」、「京丹波町を変えてほしい」、そんな町民の思いが先の選挙戦の結果につながったものと確信しております。

同じように選挙戦を戦い、選挙戦に勝利された議員の皆さんも多くの町民の同じ思いや不安、疑問を受け止められたのではないのでしょうか。

私は、改めてこれまでのまちづくりを検証するとともに、町民の皆さんからいただいた声を大切にしながら、将来につながり伸ば

すべき点、改善すべき点等を整理した上で、まちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

議員の皆様とは、町民の声にこたえる、真に京丹波町民のための議論をこれから行ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

それでは、私の任期中における町政運営の所信の一端を申し述べさせていただきますと思います。

京丹波町は分水嶺に位置し、水がきれいで自然豊かな町であります。そこで作られる黒大豆、丹波栗、丹波大納言小豆や京野菜など数多くのブランド製品があります。そうした丹波ブランドの中でも「京丹波町産」が一番のブランドであると考えております。地域の特性や地域資源を活かしたまちづくりを進め、急激な人口減少の流れを緩やかにしてまいりたいと考えております。また、選挙において掲げておりました理念である「健康の里づくり」実現に向けて取り組んでまいります。

「健康の里づくり」とは、第一義には町民お一人おひとりの健康です。心も体も健康な状態という文字通りの「健康」に加え、仕事や家庭、自分の時間のバランスが取れ、収入や仕事など生活を維持するために必要な環境が整っている状態であるなど「生活面の健康」、そして、他人に必要とされ、何らかの役割や生きがいを持ち社会の中に居場所があると感じられる「社会的な健康」、この3つの「健康」がそろった状態を町民お一人おひとりが実感できる状態にしていきたいということです。

町行政といたしましても、医療や福祉、高齢者対策などに積極的に取り組み、町民一人ひとりが先ほどの3つの「健康」を維持し、安心して暮らせるまちづくりをめざしてまいります。

そのためには、財政基盤も含め、京丹波町行政自体も公平・公正かつ健全で将来に不安のない「健康」な状態を維持し続けなければ

ばなりません。町民お一人おひとりの「健康」と町行政の「健康」、その2つの「健康」がそろい町民が安心して「幸せ」に暮らせる、そんなまちづくりが「健康の里づくり」であると考え、以下の5つの柱を掲げて取組んでまいります。

1つ目の柱は、「町行政の公正化」であります。ご案内のとおり京丹波町は少子高齢化による人口減少など厳しい状況下にあります。こうした厳しい環境下にあっては、町行政と町民が知恵と力を結集して行政課題の解決に取り組んでいかなければなりません。

まちづくりの主役は町民の皆さんです。町が事業の実施にあたり、町民の皆さんにしっかりと説明し、ご理解いただくことで協力いただけるものであり、そうした手続きの徹底を図ってまいりたいと考えております。

その「町行政の公正化」にとって、一つ目の課題は、選挙戦の大きな争点ともなりました丹波地域開発株式会社への公費投入の問題であります。多くの町民の方から納得できない、説明責任を果たしていないのではないかというご指摘をいただきました。しっかりと調査と議論を行い、しかるべきタイミングで町民の皆さまに情報公開を行うとともに説明責任を果たしてまいりたいと考えております。

それでも不明朗な部分が残し、町民の方々にご納得いただけない場合には、弁護士等の第三者に調査をお願いして、その調査結果をあらためて公表し、再度説明をさせていただきたいと考えております。

「町行政の公正化」の二つ目の課題は、新庁舎建設の問題であります。町役場の庁舎は災害発生時には災害対策の重要な拠点となるものです。幸い京丹波町では今まで大きな災害は発生してきていませんが、過去に経験したことがないような自然災害が発生している昨今、災害に強い安心して暮らせる町づくりのためには、防災拠点となる新庁舎建設は早期に取り組むべき課題と認識しています。

しかしながら、選挙戦の中で町民の多くの方々から、現在の計画されている34億という建設費の圧縮を求める意見をいただきました。

京丹波町新庁舎建設基本計画の答申や建設予定地については議会でも決議がなされていますが、そうした経緯も踏まえながら、町民が使いやすく、建設費、ランニングコストが最大限抑制できるよう見直しを行ってまいります。ただし、合併特例債の起債の期限もありますことから、スピード感をもって早急に取り組んでまいりたいと考えております。

また、現行の町政懇談会の開催方法を改善し、町政ミーティング（タウンミーティング）を実施し、町民の皆さんが行政に対し何を求め、期待されているのかの生の声や提言を、対話を通じて把握するよう努めてまいります。

先ほど申し上げました丹波地域開発株式会社への公費投入の問題、さらには新庁舎建設計画の見直しにつきましても、次年度の町政ミーティングの際に町民の皆さまにご説明、ご報告できるよう取り組んでまいりたいと考えています。あわせて、SNS等を活用した町行政の情報発信についても取り組んでまいります。

2つ目の柱は「環境整備」であります。近年、自然災害が多発しています。災害から身を守るための対策として、開設された避難所に避難することが想定されます。概ね地区の集会所が1次避難施設と位置付けられておりますが、設備や機能が整った施設ばかりではないと考えております。安心して避難していただくために施設の再考や設備等の整備に取り組んでまいります。

特に、住民の安心・安全を確保し、生命・財産を守る消防団は、なくてはならない存在であります。消防団員の活動を支援し、団員の確保に努めてまいりますとともに、非常時での地域住民の連携である「共助」は、限りある行政支援の「公助」に比べ、強力なものとなります。このことから、地域において自主防災組織の設置を促し、推進してまいります。

もう一つ、本町には古くから引継がれる伝統文化や行事がそれぞれの地域にあり、地域のコミュニティや「絆」を形成しています。こうした伝統・文化や行事についても、地域を発展、継続させるために支援してまいります。

3つ目の柱は「暮らしの安心・安定」であります。健康を保ち生活していく上で、不安のない状態を保つ必要があります。

高齢化が進むなか、安心のよりどころである医療体制につきましては、医師や看護師の確保も含め厳しい経営環境にあります。京丹波町病院が「町民の命を守る」責務が全うできるよう関係機関とも連携しながら取組みを進めてまいります。

また、高齢者の一人暮らしや外出支援などの生活相談、空き家対策や墓地保全、遊休農地保全対策などの財産管理相談など地域に寄り添いながら対策を講じてまいります。また、町内の社会福祉法人や各種団体と連携しながら高齢者の方々が、これからも住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう空き家や空き店舗等を改修してグループホームとして整備するなど安心して地域で住み続けられる町づくりをめざします。また、給付型奨学金の新設により、そうした体制づくりに不可欠な介護職員の確保につとめてまいります。

4つ目の柱は、「子育て支援」であります。人口減少の中で、安心して子どもを産み育てられる環境の整備とともに、働く場を確保することが重要であると考えております。幼保一体型の認定こども園の設置についても、京丹波町の実情に合わせた検討を行なう中で設置に向けた取組みを進めてまいります。また、須知高校につきましても、町内にある唯一の高校として、特色を活かしながら存続に向けた支援を町としても行なってまいります。

学習スペースを充実させた図書館の設置につきましても、新庁舎建設の見直しと合わせて検討を進めてまいります。

最後の5つ目の柱は「産業振興」であります。本町の基幹産業でもある農林業を中心とした産業の振興に向けて取組んでまいります。

近年、少子高齢化の影響などから後継者や担い手が不足し、不耕作地が増加傾向にあります。しかし、一方で町内には新たな農業生産組織が設立されたり、また新規に就農される方も出てきています。

私は、農業所得が向上すれば必ず新規就農者は確実に増えると考えています。そのためには、新規就農者に対する支援策として、例えば農業生産法人での研修制度を設けることで、農業に対して関心を持ってもらい、就農のきっかけづくりとするなどの仕組みを構築したいと考えております。

このほか、専業でなくても農業をやってみたいという人はたくさんおられますので、そうした方をどう呼び込むか、どう情報発信していくかも検討し実施してまいります。また、これには、生活基盤となる住居を提供できることも重要であり、空き家バンク制度の活用やゲストハウスやシェアハウスの設置など住環境の整備についても取組みたいと考えております。

特A米の「丹波産キヌヒカリ」や黒大豆、丹波栗、丹波大納言小豆や京野菜など、農産物の京丹波ブランドの一層の確立と厳正な管理を行うことで競争力の高い農産物の生産が可能となり、そのことにより農家所得が向上すればいろいろな可能性が広がると確信しています。

その一方、丹精込めて生産された農産物を守るため、住民の皆さまをはじめ多様な狩猟の担い手と連携した有害鳥獣対策の強化にも取組んでまいります。

また、丹波自然運動公園を活かしたスポーツ観光や80%を超える山林面積を有する京丹波町の大自然を活かした山岳、山林観光、農業や林業等の体験型観光など地域の自然や文化など地域資源を活かした観光創出を行い、それを国内外へ発信し、ホームページや旅行サイトで京丹波町のPR強化を行なうなど観光産業の振興にも取組んでまいります。

これら5つの柱を軸として、これからのまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますが、既に第2次総合計画をはじめ各種計画が策定されているところであり、これに基づく事業等も実施されているところであります。このため、要所、要所で検証を行ない、改善策の検討も加えながら事業を進めてまいります。

以上、私の町政運営の所信を申し述べさせていただきました。

私は、初登庁式のご挨拶で京丹波町のまちづくりについて、「みんなでやる」のではなく、「みんながやる」ことが重要であると申し上げました。

何と言いましても、町の主人公は町民の皆さんお一人おひとりです。私たちの京丹波町を守り発展させていくためには、町民の皆さんが自ら町政に参画いただくことも不可欠です。

この京丹波町を次の世代を担う子どもたちに自信と誇りをもって引き継いでいくためには、町長がやる、議員がやる、町職員がやる、町民のお一人おひとりがやる、愛する京丹波町のためにみんながやる。そうした取組みを通じて、「誇りと自信がもてる新しい京丹波町」を創り上げる、このことを目標に町政運営に取り組んでまいります。

みんなが力をあわせて、京丹波町を一步でも前へ進めていきましょう。

今後の町政運営に格段のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、町長就任の所信表明とさせていただきます。